



Y.Hatanaka

THE NIIGATA NISAI STAKES

第45回 新潟2歳ステークス (GⅢ)

本賞	1着 31,000,000円	2着 12,000,000円	3着 7,800,000円	4着 4,700,000円	5着 3,100,000円
付加賞	357,000円	102,000円	51,000円		



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

2歳
負担重量 馬齢重量

2025.8.24 新潟 晴・良 芝1600m (国際) (特指)

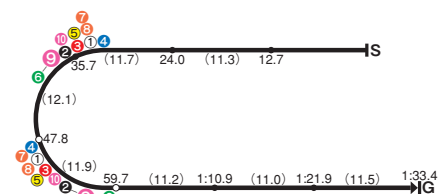
順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り 600m (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑨	リアライズシリウス	牡2	55	津村明秀	1:33.4	2-2	33.4	518(+6)	2.3①	手塚貴久(美浦)	109
2	③	タイセイボーグ	牝2	55	田口賢太	4	5-5	33.1	468(+8)	12.7⑥	松下武士(栗東)	101
3	④	フェスティバルヒル	牝2	55	石橋 脩	ハナ	10-9	32.5	450(+12)	4.4③	四位洋文(栗東)	101
4	⑧	サンアントワーン	牝2	55	岩田望来	1	7-7	33.0	458(+6)	8.1④	鹿戸雄一(美浦)	99
5	⑩	タイセイフレッサ	牝2	55	斎藤 新	½	3-4	33.4	462(±0)	35.2⑦	斎藤 誠(美浦)	
6	⑦	サノグレイター	牡2	55	横山琉人	2½	7-9	33.2	464(-2)	4.3②	尾形和幸(美浦)	
7	⑥	フォトンゲイザー	牡2	55	木幡巧也	2	1-1	35.4	428(±0)	160.1⑩	牧 光二(美浦)	
8	⑤	ヒルデグリム	牝2	55	石川裕紀人	½	5-5	34.1	448(-2)	9.2⑤	小野次郎(美浦)	
9	②	リネンタイリン	牡2	55	柴田大知	ハナ	3-3	34.6	464(±0)	94.3⑧	南田美知雄(美浦)	
10	①	メーゼ	牝2	55	菊沢一樹	9	7-7	35.4	430(-14)	64.6⑨	菊沢隆徳(美浦)	

単勝⑨230円(1¼) 複勝⑨120円(1¼) ③230円(6¼) ④150円(3¼) 枠連③-⑧1,400円(6¼)

馬連③-⑨1,650円(7¼) ワイド③-⑨500円(6¼) ④-⑨260円(2¼) ③-④700円(12¼)

馬単⑨-③2,260円(7¼) 3連複③-④-⑨2,040円(7¼) 3連単⑨-③-④10,290円(35¼)

5重勝⑩②①⑤③309,860円(1,490票) 対象競走: 札幌10R/新潟10R/中京11R/札幌11R/新潟11R



通過タイム: 600m 800m 1000m 上り: 800m 600m
35.7 - 47.8 - 59.7 45.6 - 33.7

アラカルト

- ・津村明秀騎手は新潟2歳S初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算20勝目
- ・手塚貴久調教師は新潟2歳S初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算40勝目
- ・ポエティックフレア産駒はJRA重賞初勝利
- ・新種牡馬産駒の勝利は10年マイネイサベル(父テレグノシス)以来15年ぶり、通算7回目(グレード制を導入した84年以降)
- ・芦毛馬の勝利は初
- ・リアライズシリウスの馬体重518kgは08年セイウンワンダーの504kgを更新する本競走優勝馬の最高馬体重記録

リアライズシリウス *Realize Sirius*

牡 芦毛 2023.3.14生
北海道千歳市 社台ファーム生産
馬主・今福洋介氏 美浦・手塚貴久厩舎
馬名意味・冠名+恒星名(太陽以外で1番明るい星)

ダンスーズデトワールFR系 F13-b

ポエティックフレアIRE Poetic Flare 鹿毛 2018	Dawn Approach 栗毛 2010	New Approach Hymn of the Dawn
	Maria Lee 鹿毛 2007	Rock of Gibraltar Elida
レッドミラベル 芦毛 2014	ステイゴールド 黒鹿毛 1994	サンデーサイレンスUSA ゴールデンサッシュ
	ダンスーズデトワールFR 芦毛 1999	Highest Honor Latifolia

5代までのインブリードなし

INTERVIEW

東礼治郎場長(社台ファーム)

高まる期待は抑えきれません

デビュー戦の結果には素直に胸がときめきました。ただ、今回は勝った馬同士の戦いですし「展開を含めてどんなレースを見せてくれるか」という気持ちもありました。このパフォーマンスを見てしまうと高まる期待は抑えきれません。牝系の力もありますし、大レースの勝ち方を知る厩舎の下でさらにパワーアップを図り、今後も堂々と強敵たちと渡り合ってほしいです。

S.Suzuki



父ポエティックフレアは英2000ギニー、セントジュームズバレスSとG1を2勝した名マイラー。3歳限りで引退し、翌年から日本で種牡馬入りの経歴を持つ。その初年度産駒にあり、東京・芝1600mの新馬戦を7馬身差で逃げ切った「大物出現」と脚光を浴びた本馬は、初戦とは異なり2番手を追走する形となったこの日も父譲りの非凡なスピードを大いにアピール。14年にミューゼルトンが記録したレースレコードに肩を並べたうえで、2歳のコースレコードにも0秒1差と迫る好時計で圧勝し、今年の種牡馬産駒の『重賞一番乗り』を果たした。

父ポエティックフレアIRE

英、愛、仏11戦5勝(英2000ギニー^{G1}、セントジュームズバレスS・英^{G1}、キラウランS・愛^{G3}、レパーズタウン2000ギニートライアルS・愛^L、愛2000ギニー^{G1}2着、サセックスS・英^{G1}2着、ジャックルマロワ賞・仏^{G1}2着)、22年から供用〔代表産駒〕リアライズシリウス(本馬)

母レッドミラベル

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央11戦1勝、地方2戦0勝
ルージュメイベル(20 牝父ハービンジャーGB)中央8戦0勝、地方16戦0勝
ナリタエスポワール(21 牝父サトノクラウン)不出走
ランツフォート(22 牝父ブリックスアンドモルタルUSA)中央5戦1勝 ④

リアライズシリウス 本馬(23 牝父ポエティックフレアIRE)中央2戦2勝(新
| 潟2歳S^{GIII}) 獲得総賞金38,857,000円
(24 牝父ベンバトールGB)
(25 牝父カフェファラオUSA)

祖母ダンスーズデトワールFR

仏1勝(マルセルブーサク賞^{G1}2着、イソラベラ賞・L2着、ヤコウレフ賞・L3着)、04年輸入、20年用途変更

ステージプレゼンス(07 牝父アグネスタキオン)中央2勝(糸魚川特別、きさらぎ賞^{GIII}3着)、地方34戦4勝

ルルージュ(08 牝父ゼンノロブロイ)中央6勝(アルゼンチン共和国杯^{GII}、札幌日経オープン^{Op}、江の島特別、石和特別、目黒記念^{GII}2着、巴賞^{Op}2着、アルゼンチン共和国杯^{GII}3着)

オメガホームラン(09 牝父ダイワメジャー)中央3勝(ジュニアC^{Op}、クローバー賞^{Op}3着)、地方0勝

レッドシルヴィ(13 牝父ヴィクトワールピサ)中央4勝

レッドミラベル(14 前出)

曾祖母ラティフォリア Latifolia

イギリス産 英0勝

ダンスーズデトワールFR(99 前出)

ウォッチアウト Watch Out(06 牝父Rock of Gibraltar)仏2勝、イサリス Isalys(クリテリウムデュベケット・仏L2着)の祖母

母の父ステイゴールド

北海道白老産 中央、香、首7勝(香港ヴァーズ^{G1}、ドバイシーマクラシック・首^{G2})
〔BMS代表産駒〕ヘントール ④(天皇賞(春)^{G1}、父ルーラーシップ)、アラバロース(全日本2歳優駿^J、父ヘニーヒューズUSA)

新種牡馬産駒が、重賞一番乗り

2021年のセリフォス、23年のアスコリビチエーノをはじめ、このレースの勝利を大きな飛躍へ繋げた馬も多い新潟2歳Sからは、今年も高い将来性を感じさせる素質馬が名乗りをあげた。単勝2・3倍と断然の支持を集めたリアライズシリウスが堂々の走りを披露。新馬戦に続いてワンサイドの圧勝劇を演じ、無傷の2連勝を飾った。フォトンゲイザーが先導役を務めたレースはゆったりとした流れで進行。リアライズシリウスの津村明秀騎手はスタートで立ち遅れたものの、すぐに行き脚がついてスピードに乗った馬と呼吸を合わせ、離れた2番手に腰を落ち着ける。東京・芝1600mの初陣

を豪快に差し切り、2番人気に支持されたサノグレートは後方馬群の外を追走。阪神・芝1600mの新馬戦から駒を進めてきたミュージアムマイルの半妹、3番人気の支持を集めたフェスティバルヒルも折り合いに専念してジワジワと位置を下げ、最後方で末脚勝負に構えた。

単騎で逃げたフォトンゲイザーは直線に向くと馬場の内めへ。対して津村騎手は傷みが少ない真ん中へ進路を取り、スパイトにかかる。残り400m地点を過ぎて先頭に立ったリアライズシリウスは、後続の反撃をまったく寄せ付けずに独走。僅差の2着争いを繰り広げたタイセイボークとフェスティバルヒルに4馬身差をつけ、悠々とゴールを駆け抜けた。

父ポエティックフレアは英2000ギニー、セントジュームズバレスSとG1を2勝した名マイラー。3歳限りで引退し、翌年から日本で種牡馬入りの経歴を持つ。その初年度産駒にあり、東京・芝1600mの新馬戦を7馬身差で逃げ切った「大物出現」と脚光を浴びた本馬は、初戦とは異なり2番手を追走する形となったこの日も父譲りの非凡なスピードを大いにアピール。14年にミューゼルトンが記録したレースレコードに肩を並べたうえで、2歳のコースレコードにも0秒1差と迫る好時計で圧勝し、今年の種牡馬産駒の『重賞一番乗り』を果たした。